



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者

守永信幸

〒870-0022

大分市大手町3-2-9

TEL 097-532-4919

FAX 097-534-6598

今任期最後の定例県議会を終えて

2015年第1回定例県議会は、2月26日から3月17日までの20日間の会期で開催されました。今議会は、4月に県知事選挙や県議会議員選挙を控えていることもあり、2015年度予算については、骨格として編成された予算の審議となりました。

骨格予算の編成方針は、人件費等の義務的経費は全額を計上し、政策的経費については4月からすぐに執行しなければならないものを計上すると共に、景気の腰折れとならないように投資的経費の上半期発注相当分にあたる予算として2014年度当初予算の7割程度を計上しています。県知事選挙後に新しい任期に就いた県知事の方針に従って計上される肉付け予算と呼ばれる本格予算を新たな議員で審議することになります。

また、2014年度の補正予算として、国の補正予算関連で「地域住民生活等緊急支援のための交付金」に関わる事業、公共事業に関わる国の補正予算関連で防災・減災対策、産業振興等活性化対策に関わる事業等の予算を議決しました。

議会の政策検討協議会を中心に議論が進められた「おんせん県おおいた観光振興条例」についても、議員提出議案として提案され可決されました。国東半島宇佐地域が世界農業遺産に、姫島と豊後大野市がジオパークに認定されるなど、これからの新たな観光資源の発信も大切ですが、観光振興条例では、県民の皆さんのホスピタリティも発揮して頂きたいと考えています。

今議会が任期中最後の議会となるため、継続審議とされてきた誓願については、採決を取るか審議未了として一応の幕引きがされます。

私が紹介議員となった「障害者総合福祉法（仮称）の成立を求める誓願」については、審議未了の扱いとしました。この誓願は、障がい者らが参画をして、これからの社会に必要な障がい者施策の骨格提言をできる限り取り込んだ障害者総合福祉法の成立を求めたものです。「障害者の権利に関する条約」の締結に必要な国内法の整備を始めとする障がい者に係る制度の集中的な改革を進める事を目的として2009年12月に「障がい者制度改革推進本部」が設置され、推進本部の下に障がい者施策の推進に関する意見をまとめる「障がい者制度改革推進会議 総合福祉部会」が設けられました。その部会で骨格提言として提言をまとめた訳です。この請願では、国の取りまとめた障害者総合支援法による支援内容と骨格提言での支援内容とにかなりの開きがあるため、その差を縮めることを求めての請願でした。この請願は継続審議として、国の動向を見守り続けてきました。国が障害者総合支援法と骨格提言との乖離を認め、法施行後3年経過時に見直しをする事を決めています。今のところ具体的な見直し経過は報告されていませんが、国の見直し議論の状況を踏まえて、次期任期の県議会に改めて請願を出す事を考えています。

昨年の第1回定例会では、「誰もが安心して暮らせる大分県条例（障がい者差別禁止条例）」の制定を求める請願が採択をされ、県執行部が、県としての条例案を作成する作業を行っています。この条例作成作業については、県議会議員の任期とは関係なく、作成作業が続けられる事となります。執行部の素案を下に議論を深め、県民の皆さんからも広く意見を頂きながら、より良い条例案に仕上げていく事となると思われます。



3月21日に開通した東九州自動車道
写真は中津IC付近

今任期を振り返って

2011年度から2014年度までの間を振り返って、どの様なことがあったのか、今後の課題にも触れながら記述してみました。まだまだ大切な項目もあるのですが、紙面の都合で絞り込んでみました。

皆さまから、様々なご意見を頂ければありがたいです。

東日本大震災からの復興と回復

2011年は、東日本大震災からの復興と様々な影響からの回復に取り組む1年となりました。被災地の工場の中には、他県で製造していない資材の工場が被災し、全国に資材供給ができなくなるといったこともありました。例えばコカコーラのペットボトルの赤いキャップが製造できず、白いキャップで流通したりもしました。また、被災地の生産分を他県の工場がカバーするために、従業員が超勤や休日出勤で対応したと言った影響も出ていました。津波被災地域では、水産加工場などの地場産業も大きな痛手を負い、地域に於ける雇用の場が喪失してしまいました。また、福島県では、東京電力福島第1原子力発電所が、外部電源喪失により炉心溶融（メルトダウン）に至り、大量の放射性物質が建物外部に放出されるといった重大事故となりました。福島第1原発は、未だに収束への作業が進んでいないようです。



▲ 3.11 被災後間もない頃の状況

県民クラブでは、被災地の状況を調査するために、数次にわたり現地を訪ねました。

また政府は、被災地の瓦礫処理を早急に終えるためとして、日本全国に瓦礫の焼却処分を要請しました。大分県でも津久見市が受入を表明したものの、多くの住民が放射能に汚染された瓦礫の処分となることを懸念する状況ともなりました。県民クラブでは調査団を編成し、被災地の現場で瓦礫処理がどのように行われているのかを調査しました。現地では瓦礫でも再利用できるものは極力再利用するスタンスで、きれいに分別をし、放射線量の測定をしながら処分していました。



▲ 瓦礫と森で作る防潮堤

南相馬市の桜井市長は、「被災した住民にとって、瓦礫は決してゴミなどではない。行方不明の家族・住民の思い出が詰まった大切なものがそこにある」と話されていました。

瓦礫を使って、森の防潮堤を作りたいとも桜井市長は話されていました。

その後2012年7月の九州北部豪雨で生じた瓦礫の処分作業が必要となったため、結果的に、東日本からの瓦礫の焼却作業を津久見市で受け入れることにはなりませんでした。

県立美術館の建設

2011年第2回定例会では、県立美術館の建設に向け、建設用地を何処にするかが議論となりました。別府市や由布市なども誘致に名乗りを上げる中、大分県土地開発公社が取得していたオアシス21の北側にある土地を県が購入し建設する事が決まりました。

中心市街地の活性化に効果を期待する声がある一方で、大分市内に大分市立美術館もあることから、2つの美術館が必要なのかと言った声もあがりました。市立と県立とでは役割が異なる



▲ 4月24日にオープンする県立美術館

る部分もあるのですが、市民の皆さんの理解を得るためには、これからの運営の在り方に工夫を凝らし、双方がより成長していることを実感させるものにしなければならないと思います。

県立美術館は、2015年4月23日にオープン・イベントが催されます。

大型クルーズ船の別府入港

2011年8月に大型クルーズ船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」(船客定員最大2,076名)が初めて入港しました。国際観光港の北側に着岸したわけですが、外国からの観光客の受入に、関連設備整備の促進の機運も高まってきました。

その後の日中、日韓の関係悪化に伴い、大型クルーズ船の寄港は伸びてはいません。これから民間交流などによりアジア諸国との関係改善を実現させるためにも、様々な企画を提案して欲しいものです。



▲大型クルーズ船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」

大分駅周辺のJR連続立体交差工事が完成

2012年3月に大分駅周辺の踏切を立体交差に変えていく工事が完了しました。これに伴い、これまで駅裏と言われてきた南口は、「上野の森口」となり、公園も整備されました。左の写真は、南側から大分駅を捉えたものですが、北口駅前広場も2015年3月21日にオープンし、駅ビルも2015年4月に完成です。これからの中心市街地の活性化に向けて、新たな企画が組まれる可能性も広がっていきます。



▲高架が完成した大分駅

▶ 2015年3月にオープンした北口駅前広場



この高架化事業は、村山富市先輩が総理の時に計画が持ち上がり、自社さ連立政権時代に事業認可されたもの。駅周辺の区画整理事業も含め、村山先輩の影響力がなければ、未だに線路で分断され、街づくりにシクハクしていたのかもしれない。

九州北部豪雨災害に見舞われる

2012年7月に中津市、日田市、竹田市、豊後大野市を中心として豊肥地域や県北・久大地域を豪雨が襲いました。「これまでに体験をしたことのない豪雨」がこれらの地域を数次に亘り襲ったのです。

県の豊肥庁舎も浸水し、公用車が水没するといった被害がでました。

災害発生に当たり、竹田市では、ケーブルテレビが被災の状況を市民に知らせる役割を担いました。これを一つの切っ掛けとして、大分県下のケーブルテレビ局で構成する「大分県デジタルネットワークセンター(株)」が、現在では大分県防災会議のメンバーとなっています。



▲中津市洞門橋付近

◀日田市有田川の様子



ドクターヘリ運航開始



2012年10月に、ドクターヘリが運航を開始しました。大分大学付属病院の救命救急センターを基地としており、大分県防災ヘリ「とよかぜ」と久留米大学病院を基地として福岡・佐賀・大分の3県で共同運用する福岡県ドクター・ヘリとの3機で大分県下をカバーする体制が整いました。

これにより大分県下を20分以内にカバーできることとなりました。救える命を救える体制の充実にこれからも努力して参ります。

格安航空会社続々就航

2013年3月にジェットスター・ジャパンの成田便が、2014年10月には関西便が就航。ティーウェイ航空ソウル便も2014年9月に就航しました。これらの航空便によって大分県への訪問客が増加することを期待します。また県外への積極的な売り出しも必要です。「おんせん県おおいた」の浸透を図らなければなりません。



▲2014年9月24日に大分空港に降り立ったティーウェイ航空の飛行機

世界農業遺産とジオパーク

2013年5月に国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定されました。世界農業遺産は、世界遺産とは異なり、地域の農業生産システムを遺産として認定するものです。システムとして将来的に維持されていかなければならないわけですから、後継者をどう確保するかが重要となります。単に観光客を呼ぶだけでなく、長期に滞在し農業システムの維持に協力できる方々を募っていくなど、工夫を凝らさなければなりません。また、農業で生活できるシステムを考えていかなければならないと思います。



また、同年9月には姫島と豊後大野がジオパークに認定されました。今後ジオガイドの養成を行い、科学者などの専門家を案内できるほどにまでガイドを高めることが重要と思われます。

おんせん県おおいた商標登録

2013年11月に「おんせん県おおいた」が商標登録されました。同年9月から既にCMを開始しており、この県民参加のCMも人気は上々です。



ラグビーワールドカップ開催会場に決定

2019ラグビーワールドカップの開催会場の一つに大分銀行ドームが決定しました。日本国内では12会場で開催され、その内3会場が福岡、熊本、大分と九州で開催されることとなりました。

東九州自動車道 大分県内全線開通

2015年3月に、東九州自動車道の県内部分が全線開通しました。北九州から宮崎市までの約320kmが、ほぼつながることとなりました。これにより、福岡・大分・宮崎の地域間が活発になることを期待します。しかし、若者が都市部に流出してしまうのではないかと、インターチェンジの間の地域は単に通過地域になってしまい埋没するのではないかと、といった点は気がかりです。地域が輝きを増して、住みたくなる、訪れたくなる地域づくりに力を入れなければなりません。

これからの地域振興が勝負どころです。そのためには、人づくりに手を抜くことは出来ません。



▲東九州自動車道 豊前IC-宇佐IC間開通式典

統一地方選、必ずに投票に行きましょう

政治は生活に密着しているものです。よりよい生活スタイルの構築やライフプランを描くために、必ず投票に行きましょう。

4月12日 大分県知事選挙・大分県議会議員選挙

4月26日 大分市長選挙・別府市長選挙

市町村議会議員選挙 (別府市・中津市・日田市・津久見市・杵築市・宇佐市・玖珠町・姫島村)